



里山社新刊ご案内
文芸書・人文書ご担当者様

10月16日から発送します。

FAX 0120-999-968


里山社
SATOYAMA
SHA

どこにもでもある どこか になる前に。 富山見聞遠巡記

藤井聡子 著 本体 1,900 円

装丁／セプテンバーカウボーイ

四六判・並製・カバー帯あり 216頁 ISBN978-4-907497-09-5 C0095

すべての地方都市同様「懐かしさ」を失いつつある富山で綴る、Uターン・アラサー女の「第二の青春」エッセイ。

生きていく場所を見つけること、生きてきた場所を愛すること。つまり、ずいたり、離れたくなったり、それでも、出会える、話したい、伝えたい、——街で暮していく思いが、こんなにもまるごと書かれている。今読めてよかった。(柴崎友香)

藤井聡子 1979年富山市生まれ。東京で雑誌編集者として勤務後、帰郷。ピストン藤井のペンネームで、富山ならではの個性の強い場所や人を探るライター活動を開始。13年ミニコミ『文藝遠巡 別冊 郷土愛バカー代!』を刊行。話題を集め、地元テレビやラジオへ活動を広げる。

自分をさがし求めて、なんかいろいろこじれてしまった人。ここに偉大な先達があります。富山か東京か。自分が咲くのはどこなのか。置かれた場所ってどこなのか？藤井さんの必死で「ひとり咲き」しようとする姿。その痛々しさに、正直であることが突破口になる。生きる場所は、地方か都会なのか。その問いをも突破した藤井さんは周囲を巻き込み、巻き込まれていく。出会った人を、奇妙な場所を特別に慈しむことがさらなるグルーブを生みだす。藤井さんは、まったく特別な人ではないのだ。どうせなら、みんなで咲こうじゃん、と強く願える人だっただけ。藤井さんが吹くホラ貝の音がきこえる。つづけ。(花本武 ブックスルーエ書店員)

再開発で失う個性、直面する閉鎖性…

東京からでは見えてこない、「ほっこり」じゃない、地方のリアル。

目次 ●失われた「寂しい富山」 ●迷走上京物語 ●都落ち・独身・アラサー女の憂鬱 ●個として生きるシンボル、総曲輪ビリヤード ●「富山、めっちゃおもしろから」 ●開かれた異界としてのドライブイン、日本海食堂 ●新世代カルチャー産む西別院裏、長屋界限 ●ワイルドサイドゆくブルースシンガー、W.C. カラス ●拝啓、フォルツァ総曲輪様 ●ここでしか会えない人 ●曇り空の下で



小社刊行物は直接取引にてお届けします。物流は低正味・スピード納品で定評のあるトランスビューが代行します。取次ルートの場合は買切・返品不可となります。自動配本はございません。トランスビューとのお取引がないお店からのご注文は、小社からご連絡致します。新規手続きは不要です。

貴店名

ご担当様

1冊からお気軽にご注文ください！
返品随時可／送料元払／取次ルートは完全買切)

冊